

令和2年1月22日

令和2年

第1回教育委員会定例会会議録

大田区 教育委員会室

令和2年1月22日（水曜日）午後2時から

1 出席委員（6名）

小 黒 仁 史		教育長
三 留 利 夫	委 員	教育長職務代理者
弘 瀬 知江子	委 員	
高 橋 幸 子	委 員	
深 澤 佳 己	委 員	
北 内 英 章	委 員	

2 出席職員（11名）

教育総務部長	後 藤 清
教育総務課長	杉 山 良 樹
教育施設担当課長	鈴 木 龍 一
副参事（教育地域力担当）	元 木 重 成
副参事（施設調整担当）	荒 井 昭 二
学務課長	政 木 純 也
指導課長（幼児教育センター所長兼務）	岩 崎 政 弘
副参事	早 川 隆 之
学校職員担当課長	池 一 彦
教育センター所長	柿 本 伸 二
大田図書館長	中 平 美 雪

3 日程

日程第1 教育長の報告事項

日程第2 部課長の報告事項

~~~~~  
(午後2時00分開会)

○教育長

それでは、ただいまから、令和2年第1回大田区教育委員会定例会を開催いたします。

本日は傍聴希望者がおります。

委員の皆様には傍聴の許可を求めます。許可してよろしいでしょうか。

(「はい」との声あり)

○教育長

傍聴を許可いたします。

(傍聴者入室)

○教育長

大田区教育委員会傍聴規則第7条により、傍聴人は、議場における言論に対して批評を加え、または拍手その他の方法により公然と可否を表明することは禁止されております。ご協力をよろしくお願いいたします。

それでは、これより審議に入ります。本日の出席委員数は定足数を満たしておりますので、会議は成立しております。

まず、会議録署名委員に三留委員を指名いたします。よろしくお願いいたします。

続いて、本日の日程第1について、事務局職員の説明を求めます。

○事務局職員

日程第1は、「教育長の報告事項」でございます。

○教育長

本日は、12月25日に池上会館で行われた中学生生徒会代表意見交流会、それから、12月26日に大田スタジアムで行われました第8回小学生駅伝大会、それから、1月18日に産業プラザP i Oで行われましたものづくり教育・学習フォーラム、そして、1月20日におなづか小学校で行われました研究発表会について、私のほうから報告させていただきます。

まず12月25日、2学期の終業式の午後に行われた中学生意見交流会についてでございますけれども、この交流会は、区内28校、中学校全校の生徒会の役員が一堂に会して、学校生活などについての状況を報告して、意見を交流する取り組みでございます。

今年の課題は、学校生活を少し離れまして、おおた教育ビジョンにあるように、大田区の未来についての意見交流ということが主な内容でございました。大田区のまちづくりの担当の職員から、大田区全体の計画をつくっていることを説明いただきまして、中学生としての希望や考えを交流するというような内容でございました。

中学生の意見といたしましては、最後に全体で発表したのですけれども、家の前の街灯が少ないことから、安心・安全への配慮が必要ではないかということ。

それから、商業施設と新しいスーパーの共存するまちの活性化を図ること。それから、大田のものづくりの町工場の専門技術などを大切にしていきたいというような中学生なりの視点で、多様な意見が出されたところです。そのことにつきましては、役所の担当の方たちも大変感心しておりました。中学生なりに社会の問題を鋭く捉えていくということが伺えました。

中学生のうちから社会に関心を持ち、社会の出来事に関わっていこうとする態度や力を育成することは、とても大切だと思います。中学生のときの志が、人生の進路を決めていくというようなこともあるかと思っております。

このような交流の場で今のうちから未来社会について考えて発表していくことは、教育ビジョンにもあります「未来をつくり出していく力」という点では、大切な視点だと思えました。将来社会について、自分の考えを発表する場をつくっていったらと思っております。このような学校生活の様々な場面で、授業も含めまして意見を表現する、そういうことが考えを深める上で大事だと感じたところでございます。

次に、12月26日に行われました小学生駅伝大会について、報告いたします。今回の小学生駅伝大会は、新しくなった大田スタジアムで開催されました。2学期の終業日の翌日ということでございますけれども、小学校はさざなみ学園を含めて区内60校ありますけれども、午前と午後、30校ずつに分かれて開催されました。

駅伝は、今から100年ほど前に日本で始まった競技でございます。一番初めの駅伝は、京都から東京までたすきをつなぐもので、二日間ぐらいかかったそうでございます。それが起源ということですが、大田区は箱根駅伝のコースにもなっておりますし、東京都の中学校駅伝大会では昨年度は総合6位に入るなど、駅伝について非常にスポーツの文化として根づき始めているのではないかと思っております。

駅伝で大切なことは、たすきをつないでいくということかなと思います。自分の持ち場である区間を一生懸命に走って、その次の人につなげるということは、走るだけではなく、全てのことに通じていくことで大切なことだと思います。

駅伝大会に参加するのは代表の選手でございますけれども、その駅伝大会までにたくさん子どもたちが長く走る機会を持つことは、子どもたちの運動生活にとって大変に意義があると思っております。走ることは、あらゆるスポーツの基本ですし、長く走るというのは、一定の辛抱強さというのも必要なと思います。また、走って、いっぱい汗をかいた後のスポーツならではの爽快感もございます。多くの子どもたちが長く走るという取り組み、駅伝という取り組みに参加できればと思っております。

大会そのものは、大変に盛り上がりました。小学生の一生懸命さというのは、

大人とまた違った真剣さがあると思いました。トラックに戻ってきたときの大歓声といいますか、オリンピック・パラリンピックさながらの熱気があって、すばらしいなと思いました。また、多くの子どもたちが、力いっぱい走り切ったという満足感を感じていたように思います。そして、それに声をかける先生たちの姿も、非常に子どもの成長を喜ぶ、よい姿であったかと思います。

次に、1月18日の産業プラザで行われました、ものづくりフォーラムについて報告いたします。ものづくりフォーラムでは、区内のものづくり産業に関わる方々の協力をいただきながら、子どもたちがものづくりの楽しさやおもしろさを体験し、興味や関心を高めるといったことを狙いとしております。今年は天候が余りよくなかったのですけれども、多くの子どもたちが集まりました。展示、コンテスト、実際のものづくり体験などに取り組んでおりました。実に多彩な活動があったと思いますが、ものづくりのまち大田ならではの取り組みだったなと思います。

発表で印象に残ったのは、六郷工科高校の生徒の発表でございます。発表者3名のうち、2名が外国籍、外国につながる生徒でした。近年の国際化ということを実感したところでございます。

また、六郷工科高校のデュアルシステムというのが紹介されまして、実際に地元工場などに実習に行く制度、実際のものづくりの場で仕事をするということは、将来の技術者を育てる上で大変に有効であると思いました。

また、たこ揚げ、とんびだこの制作など、地域のものづくりを生かした教材がたくさんございました。

それから、体験コーナーは、本当に魅力的なコーナーがたくさんあって、子どもたちがものづくりの楽しさを味わっていたと思います。

あと、木工などのコンテストでは、とてもすばらしい作品ができました。私は最後、見られなかったのですけれども、中学生のエプロンは本当に短い時間で多くの方が感心していました。中学生の中にはとても高い技術を持った子がいるのだなということで、称賛されたところです。そういう高い技術、いろいろな力を発揮できる場があることは、大変すばらしいと思いました。

また、展示物も、子どもならではの発想力の豊かさが感じられました。ものづくりのよさは試行錯誤して、いろいろなことを繰り返してものをつくり出していくということだと思えます。

これからも未来社会を創造していく生きる力を育てる上では、子どもたちが、ぜひ体験しておく、多くの大田の子どもたちが体験すべき学びであると思えました。

最後に、1月20日、今週の月曜日に行われました、おなづか小学校のプログラミング教育の報告会でございます。平成30年度、令和元年度の2年間にわた

って、先駆的にプログラミング教育に取り組んでいただきました。

公開授業では、1年生、3年生、5年生の授業が行われましたが、1年生は、拍を感じてリズムを打とうというような音楽で、拍の組み合わせをいろいろ工夫してリズムをつくり出すというような授業でした。それから、3年生は命令の順番というもので、自分の意図した場所にロボットを動かしていくというプログラミングの研究で、こちらのほうは二人に1台のタブレットを使って考えていました。5年生は、高等科のプログラミングの機能を使って多角形を描くというようなものでしたけれども、子どもたちは一人1台タブレットを使って、スクラッチというのですか、ソフトを使って操作をしていました。

いずれの授業も工夫して、目的に到達するというようなプログラミング的な思考が具体的なものになっていたと思います。

いよいよ4月からは、それらが新しい学習指導要領の中で始まるのですけれども、多くの参加者がおりました。いよいよそういう授業が始まっていくために、非常に参考になる内容であったかと思えます。教育委員会としても、条件整備、用具関係の整備を充実してまいりたいと思ったところでございます。

以上、4点にわたりまして報告をさせていただきました。

これらの報告につきまして、委員の方々からもご意見があれば、よろしく願いいたします。

#### ○深澤委員

深澤です。

私も、1月18日に行われたものづくり教育・学習フォーラムに顔を出しました。

そこで、いろいろ本当に感心したことがあるのですけれども、一番印象に残ったのは舞台発表でして、その中でも大森第一中学校のプログラミングに関する発表が、心に残りました。プログラミングを使って、クラブ部員全員がピー君というキャラクターを使って、それぞれに違うゲームをつくっていくというやり方をしているそうなのですけれども、みんな個別にプログラミングをしていくにしても、ピー君という共通のキャラクターを使っていることで、お互いにアドバイスをし合いあつたりすることができて、コミュニケーションを養うことができるということに子どもたちが気づいたということでした。それだけではなくて、より多くの人にゲームを楽しんでもらうためにはどうしたらいいかということを工夫していくためには、想像力を働かせる、より表現力を高めていく必要があるということに気づいたり、最短ルートを見つけるためには法則性を見出さなければならないということ子どもたち自身が気づいて、お互いにアドバイスをし合いながら高め合っていくというような発表でした。

私が一番感心したのは、発表者が一番最後に言ったことなのですが、今、自分たちがやっているこのゲームをつくるという作業は、自分たちが大人になったときにはもう古くて、使われないかもしれないと。だけれども、みんなでよりよいものをつくっていこうという考え方は将来の自分たちにとって必ず役に立つと言っていました。しっかりとしているなという印象を受けました。

その後に、1月20日に、おなづか小学校のプログラミングの研究発表会に行ったときに、アドバイザーの西田先生が同じようなことをおっしゃっていました。これからの社会は非常に変化が速いので、今やっていることというのは、もう数年たつと過去のものになってしまうかもしれないと。そういう意味で、今やっていることが将来的には使えないかもしれないけれども、でも、そこで培った力、プログラミング的な思考は、必ず将来の子どもにとって役に立つということです。

それを聞いて、私はなるほどと思ったのですけれども、そういうことを子どもたちに授業で聞かせるのではなく、子どもたちがやっていることの中から体験として身につけたといいますか、導き出したというところが、私としては非常に感心すると同時に、本当に大田はいい教育をしているのだなということを実感したということでございます。

以上です。

#### ○弘瀬委員

弘瀬です。

1月18日、ものづくり教育・学習フォーラムに行ってきました。いろいろなものを実際に触れて、考えて作ることは、子供達にすばらしい影響を与えるといつも思います。

ものづくり体験コーナーで酸素と水素を使った電力でプロペラが回る実験を行っていました。プロペラが回った時の子供達のニコッとした顔が忘れられません。は展示されていて子どもたちが、それは環境にすごくいいですね。と言っていたのが、とても印象的でした。

また、2階には蚕を、人工餌と桑の葉で育てた場合の違い、イカの解剖など、とても詳しく観察していました。そして、パンやお餅にはえるカビについて説明されている前で、隣にいた親子が。最初に生えるのは黒いカビらしいよ。勉強になったね。と話をしていたのを聞きながら感心していました。技能コンテストに向けて作品をお作っている傍で両親がビデオ撮影をしたり、写真を撮ったりと微笑ましい光景でした。展示物の中では、館山のさざなみアートに感動しました。身近にある木の葉でトンボ、カブトムシを作って標本にしていました。その中でジョオウカマキリは、細かい点まで観察して作られている立派な作品で感動し

ました。アケビのつるで造った籠もとてもいい作品にでき上がっていました。

やはりものづくりというのは、大田ならではのものなので、是非この経験を生かし、今後に活かして行ってもらいたいと思いました。

以上です。

#### ○高橋委員

高橋です。

1月16日に、市町村教育委員研究協議会に参加してきました。行政説明の後、地域と学校の連携・協働についての研究分科会に移動しました。

コミュニティスクールと地域学校協働活動の説明を聞いた後で、リラックスすることが大切ということで、何をするのかなと思ったら、じゃんけんゲームでした。最初は担当者に、みんな、勝つことしか考えていないでしょうとか言われて、はいとかいう感じなのですが、その次は、グループが全部同じものを出すということでやりましたが、なかなか難しかったです。でも、そのじゃんけんゲームで、メンバーと一挙に距離が縮まったような感じでグループワークができました。学校の強み、弱み、それから、地域の強み、弱みというものを自分たちで考えて、シールに書き、それを模造紙にどうしてそういうふう考えたかということ意見をしながら張りました。それで、同じような意見がまとまったら、そこから何ができるかということを検討しました。時間の関係で、学校の弱みだけについて発表をしたのですが、うちのグループでは人が足りないということが重なっておりまして、そうしたら何をすればいいか。私たちは、文科省が対応してくれるといいねと、人とかお金とかと話していたら、担当者は、そうではないのだということで、スクールサポーターとか、コミュニティの必要性をつけ加えて発表いたしました。

大田区は、スクールサポート事業がとても充実しているので、メンバーには一応伝えておきました。メンバーの中には中学が1校しかないというような町もありまして、違いを感じたところです。

また、1月20日には、おなづか小学校の研究発表会に行つてまいりました。

1年生は音楽でしたが、お弁当に入りたい食べ物の名前を手拍子でリズムをとりながら唱える学習で、グループごとに順番を話し合いながら、リズムづくりを楽しんでいました。

3年生は、先ほど教育長から話があったように命令の順番ということで、スクラッチを使ってロボットを思いどおりに動かす学習で、道筋を考えることから始まって、ポイントとして、一つずつ分けてということと、順番どおりに動かすということに沿って操作していました。ワークシートも使える指導を行つていて、無理なく学習できるように思いました。



5年生は算数で、スクラッチを使って正三角形をつくるという学習でしたが、私が見たときには、三角形ではなくて六角形ができていたりしておりましたが、記号を順序よく組み合わせ、論理的に考えることができるように指導を行っていました。また、5年生の教室では、一人に1台ずつパソコンがあったので、その後に分科会でも体験を多くの方が参加できていたと思います。

I C Tは身近なものになっていて、ただ、苦手な子もいるので、その子たちが達成感を得られるように学べる指導を、これからは求められるかなと思っております。

配布資料の指導計画はとても細かく書いてあって、とても参考になりました。以上です。

#### ○北内委員

私も、市町村教育研究協議会、1月16日、文部科学省に行ってきました。

私は五つの研究分科会のうち、いじめ対策、不登校支援、児童虐待対応について出席させていただきました。全国の教育委員会150人が出席されて、最初に行政説明があって、分科会に分かれました。その分科会では、さらに6人から8人のチームに分かれて、それぞれテーマを決めて議論をしました。

特に、いじめ、不登校、児童虐待ということで範囲が広いですので、我々のチームでは、不登校支援について討議をしました。その中で、教育委員の方が事例を紹介してくれました。一つは、委員さんのご自宅を開放して、不登校児童・生徒を受け入れているというお話でした。もう一つは、地域として不登校児童が行ける場所をつくっている。不登校児童といっても、大人になって立派に成人して社会で活躍している子どもたちはいっぱいいるのだ。だから、そんなに問題ではないのだと。居場所が大切なのだというお話をされていました。

不登校生徒との、いわゆる社会人のひきこもり、それとの因果関係は余り認められないという文部科学省からのお話でした。文部科学省の発表によると、不登校となった要因については、一番大きいのは家庭に係る状況で37.6%、いじめを除く友人関係を巡る問題と学業の不振などが上げられています。

いじめが要因というのはすごく少なくて、0.6%なのです。それで、これはおかしいのではないかというお話が出て、やはり調査方法に問題があって、これ先生たちが調査されているのです。だから、どうしても少な目に出てしまう。だから、そこに問題があるので、調査方法を今後検討しますと言われていました。

あと、家庭に係る状況ということで、非常に難しい問題で、どうやって家庭に入っていくかが大変難しいと。一方で、早期発見が大変重要だということでは一致しました。また、学校や地域、民生委員、児童相談所、教育委員会などが連携を深めるべきだという意見がありました。

あと、追加する形ですけれども、ものづくりに関しては、本当に競技会では、木工部門も、ソーイング部門も、ものづくりの原点かなと思います。やはりふだん不自由に感じているものを便利にしたいという発想で、物をつくられていたと思うのです。ランチョンマットになるお弁当箱が入れられる鞆だったり、一々ランチョンマットを出すのが面倒くさいからという発想からつくられたと言っていますから。それから、木工部門では、ソファのところにテーブルがあると便利だなと。しかしながら、普通にテーブルをつくと倒れてしまうので、足の下に棒が出て、倒れない仕組みになっているのです。本当に、ふだんの不自由を便利にするためにものづくりをされているのが、普通に産業界でもそう進んでいますので、感心しました。

あと、駅伝大会は、勝敗やタイムもありますけれども、それも大切ですが、5年生、6年生、高学年が一体となって、ワンチームとして何かをなし遂げるといふ達成感を味わえたのではないかなと私は思いました。

駅伝大会も、ものづくりも、会を主催してくださった関係者の方々、PTAの方々には感謝を申し上げたいです。

以上です。

### ○三留委員

皆さんに、いろいろお話をいただいたので、研究会のことについては、簡単にお話をさせていただきます。

プログラミング教育推進校のおなづか小学校の発表会に参加してきました。これまで、大田区のICT関係、3校が発表をしています。矢口西小学校、調布大塚小学校、おなづか小学校の3校です。全体的な私の印象なのですけれども、全体的にハード面だけではなくて、ソフト面も大分充実してきたなという印象があります。プログラミングであるとかICTを活用した教育については、10月月の定例会で、私の見解を述べさせていただきましたので、詳しくはお話をいたしませんけれども、3校の成果を生かして、区内の各校がICTを活用した学習の充実を図ってもらいたいと思いました。

それから、1月18日のものづくり教育学習フォーラムにかかわって、これも皆さんからお話があったので、ちょっと違った視点から話をさせていただきたいと思っております。

ものづくり教育・学習フォーラムなのですけれども、ちょうど私が校長になったころ始まりまして、18回を迎えました。これだけのことを毎年やっていくというのは大変なことで、関係の方々のご尽力、ご協力に感謝したいと思います。

私は、午前中の全ての舞台発表、それから、ものづくり体験コーナー、作品展、ものづくり競技会を見てきましたけれども、どれも子どもたちが本当にいい

経験をしているなという感じがしました。

「ものづくり教育」については、平成10年の学習指導要領で総合的な学習の時間が始まり、その後「ものづくり基盤技術振興基本法」が成立したころから、多くの取り組みが始まったように思います。学習指導要領に明記されたというものではないのですけれども、当時「科学技術立国」が言われるようになってきて、そういう中で盛んになってきたのだと思っています。

ものづくり教育・学習フォーラムは、平成12年から大田区が「ものづくり学習振興支援事業推進地域」の指定を受けて、平成14年から始まっています。私も当初から見ているのですけれども、基本的に舞台発表だとか展示発表だとか体験という基本的なコンセプトは変わっていないように思っています。ただ、回を重ねるたびに内容とか方法が工夫されて、より充実したものになっているという感じがします。

今回も、区内の小中学校だけではなくて、六郷工科高校だとか矢口特別支援学校といった区内の都立学校も入るなど、規模も大きくなっていると感じています。

後で課長が話をする資料の中に、この事業のねらいのが載っています。ねらいについて一つ一つ話はしませんけれども、このねらいをしっかりと意識して取り組みがなされていると思っております。

おおた教育ビジョンには、「ものづくり教育の充実」がプラン1「未来」の中に掲げられています。一つは、大田区の町工場に従事する技術者を招いたものづくり学習。もう一つは、ものづくり科学スクールの実施が施策として書いてあるのですけれども、私は、これからものづくり教育を発展させるということで、やはり大田区としての「ものづくり教育の定義とねらい」これをはっきりさせることが大切だと思っています。

それから、各学校で「ものづくり教育」にかかわる教科横断的なカリキュラムをつくっていくことです。その中で行われた実践をものづくり教育・学習フォーラムで発表する。そういう中で成果を区全体に広めていく。こういうことが大事ではないかなと思います。

#### ○教育長

ありがとうございました。

それでは、次の日程に移ります。

日程第2について、事務局職員の説明を求めます。

#### ○事務局職員

日程第2は、「部課長の報告事項」でございます。

○教育長

それでは、部課長の報告をお願いいたします。

○指導課長

私からは、初めに、第11回中学生「東京駅伝」大会についてご案内いたします。

この大会は、中学生の健康増進や持久力をはじめとする体力向上、スポーツの振興及び生徒の競技力の向上を目的として実施しております。

開催日時は、令和2年2月2日、日曜日。女子の部スタートは午前10時、男子の部スタートは午後1時。開催場所は、アミノバイタルフィールド・都立武蔵野の森公園特設周回コースです。味の素スタジアムが使用できないため、今年度の応援場所は、都立武蔵野の森公園特設周回コースの沿道になります。

男子の部は、合計42.195キロメートルを17人の選手で、女子の部は、合計30キロメートルを16人の選手で走り、たすきをつなぎます。

選手の選出にあたっては、大田区中学校陸上選手権大会の記録をもとにした学校からの推薦及び中学校からの参加希望者を募集するとともに、選考会を実施し、決定しております。

昨年度は、女子の部5位、男子の部7位、総合の部6位と健闘いたしました。また、男女ともに、10位までに贈られる敢闘賞と、過去最高記録でゴールして贈られる特別賞を受賞いたしました。

12月8日、日曜日には、池上会館集会室にて結団式を行いました。1月19日、日曜日には、都立武蔵野の森公園特設周回コースでの試走会に参加いたしました。

今年度はさらに上位を目指し、六郷土手などで合同練習に励んでいるところでございます。よろしくお願いいたします。

続きまして、先ほど、教育長、また委員の皆様からのお話がありました、ものづくり教育・学習フォーラムについて報告いたします。

ものづくりの教育成果を発表することと、大田のものづくりの区民への啓発を目的に、1月18日、土曜日、第18回ものづくり教育・学習フォーラムを開催いたしました。

案内チラシをお配りしております。表面、カラーのほうの下をご覧ください。開催にあたっては、準備会委員長、安方中学校、坂上校長先生を中心とし、委員の校長先生や委員の先生方に準備を進めていただきました。各学校では、作品展示、舞台発表、中学校代表生徒によるものづくり競技会に向けて、児童・生徒へのご指導をいただいているところでございます。また、小学校長会、中学校長会、大田区教育研究会、大田区産業振興協会の皆様にも、当日の指導、講評や運営等

で、多大なるご協力をいただいております。また、PTAのご協力もいただき、受付や案内、そして、はねびょんとしてフォーラムを盛り上げていただいております。皆様の力を合わせて、このようなフォーラムを開催させていただいていることに、心より感謝を申し上げたいと思います。

裏面の左側にあります作品展示では、東京都立矢口特別支援学校に、ものづくり体験コーナーでは、NPO法人サイエンスリンクに新たにご協力いただきました。作品展示では、矢口特別支援学校の展示パネルの前で足をとめて展示内容を見ている参観者が多く見られました。

本フォーラムが共生社会の実現に資するという点でも、充実を図ることができた点は成果の一つと言えます。あいにくの天候で大変寒い日でしたが、体験コーナーは例年どおり大人気で、午前の部、午後の部ともに受付開始の1時間以上前から並び始める家庭も多く見られました。

今年度は20種類の体験種目を16の企業、団体様で実施していただきました。体験を終えた子どもたちがうれしそうに、そして大事そうに、体験で作成した作品を保護者に見せて持ち帰る姿が見られました。つくったばかりの下駄を履いて会場を歩くほほ笑ましい光景を見ることもできました。このような子どもたちの姿は、各企業、団体の方々には、体験児童・生徒に丁寧に指導していただいたおかげであると感謝しております。

舞台発表ではどの学校も、ものづくり体験、または職場体験などを舞台上で発表していただきました。伝統的なものづくり、協働で作成するものづくり、環境に配慮したものづくり、コンピューターを活用したものづくりと、大変バラエティーに富んだ内容でございました。東京都立六郷工科高等学校及び蒲田女子高等学校の生徒の発表は、小中学校が自分もこんなものづくりをしてみたいという憧れを抱くような発表内容でございました。

今年度も、大田区環境清掃部の協力を得て、スタンプラリーの景品として、はねびょんノートを作成いただきました。大田区の庁内に出る古紙から再生紙を作成するペーパーラボで作成し、かんなをけずるはねびょんの表紙から始まり、大田区の町工場の説明、裏表紙には、環境計画課による環境啓発の内容が掲載されているところがございます。約300冊が配布されました。また、環境清掃部には、競技会に参加した生徒の参加賞及び敢闘賞として、はねびょんエコバッグをご提供いただきました。

今回は、6,469人の皆様に入場していただきました。来場者のアンケートでは、本フォーラムに参加したことで、ものづくりの楽しさやすばらしさを感じることができたと思いますかという設問への肯定的回答は、96%と大変高い評価を得ることができました。

本フォーラムは、ものづくりのまち大田の教育における一大イベントとなっ

ております。今後、参加した子どもたちがものづくりに興味・関心を持ち、将来のものづくりを支えたり、または関わったり、そして応援したりする人、そんな人材になっていくことを期待しております。

私からは以上です。

○教育長

ただいまご報告いただきましたご報告につきまして、ご意見、それからご質問等ありますでしょうか。よろしいですか。

それでは、質問もないようですので、これをもちまして、令和2年第1回教育委員会定例会を閉会といたします。

(午後2時42分閉会)

